

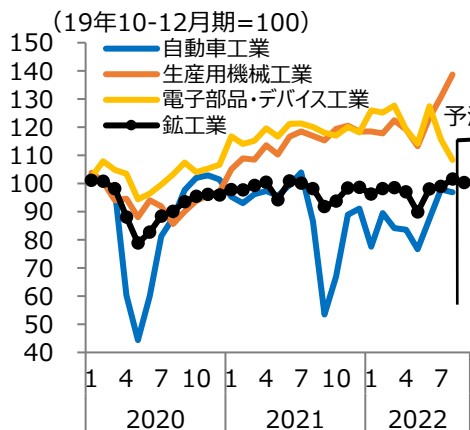
日本

鉱工業指数 (2022年8月)

生産はコロナ前水準を回復、海外経済減速下でも底堅く推移

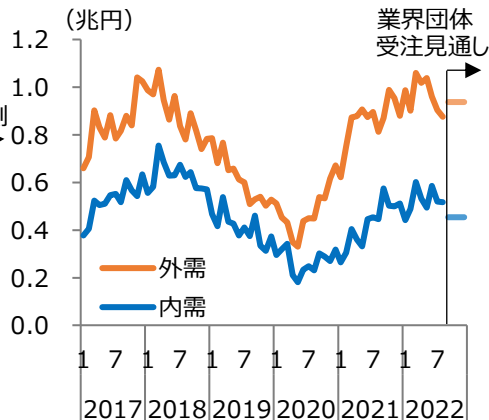
政策・経済センター
堂本健太
03-6858-2717

1 鉱工業生産指数 (業種別)



注：予測は製造工業生産予測指数を経済産業省が補正した予測値で延長。
出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」

2 工作機械受注



注：原数値。業界団体受注見通しは9～12月の単純平均。
出所：日本工作機械工業会「工作機械統計」

評価ポイント

今回の結果

- 8月の鉱工業生産指数 (季調値、速報) は、前月比+2.7%と3カ月連続で上昇した (図表1)。製造工業生産予測調査に基づく予測値 (同▲0.6%、経済産業省補正済み) を上回り、コロナ危機前水準 (20年1月) を回復した。
- 業種別では、生産用機械工業 (同+6.1%) が全体を牽引し、全15業種中10業種が上昇した。自動車工業 (同▲1.1%) は、3カ月ぶりに低下したものの、前年比ベースでは13カ月ぶりにプラスに転じており回復傾向は続いている。

基調判断と今後の流れ

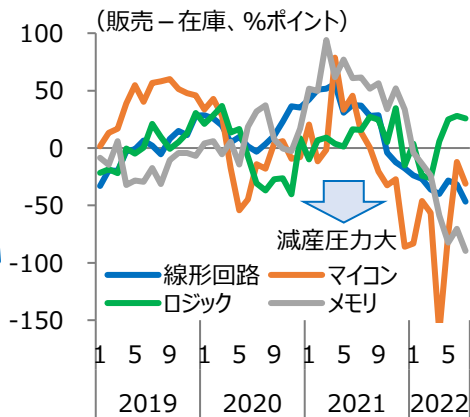
- 生産指数は、中国・上海市のロックダウンの解除、既往の半導体不足緩和等、部品供給の混乱解消から、持ち直し傾向にある。
- 先行きは、上昇ペースが鈍化するものの、底堅い推移を見込む。企業の生産計画は、9月 (前月比+2.9%)、10月 (同+3.2%) と強気の見通しだ。生産計画は下振れる傾向が強くとみているが、緩やかな上昇傾向が続くだろう。
- 特に回復が見込まれる分野が自動車工業だ。半導体不足は徐々に緩和しており、大手メーカーは22年度下期の生産計画を強めに置いている。生産の完全な正常化は23年以降になると見込まれるが、緩やかな増産は続くだろう。
- 生産用機械工業等、資本財関連の生産も堅調が見込まれる。資本財需要を示す工作機械受注は高水準で推移している (図表2)。9月下旬に公表された業界団体の受注見通しも1月時点から上方修正され、海外経済減速下でも外需が堅調を維持するとみられる。
- 一方、電子部品・デバイス工業等、情報関連財は弱含む。7月の世界半導体出荷額は32カ月ぶりに前年比マイナスに転じ、半導体市場は調整局面入りしている (図表3)。日本の販売・在庫バランスをみると、メモリや線形回路の在庫調整圧力が強まっている (図表4)。もっとも、自動車向けで依然不足感の強いロジックの増産圧力が高まっている点は、自動車生産にとって好材料だ。

3 世界半導体出荷額



出所：世界半導体市場統計 (WSTS)

4 日本の半導体関連販売・在庫バランス



注：販売数量前年比-月末在庫数量前年比。
各項目の詳細は、線形回路 (標準線形回路)、マイコン (MCU)、ロジック (モス型標準ロジック)、メモリ (モス型メモリ)。
出所：経済産業省「生産動態統計」より三菱総合研究所作成